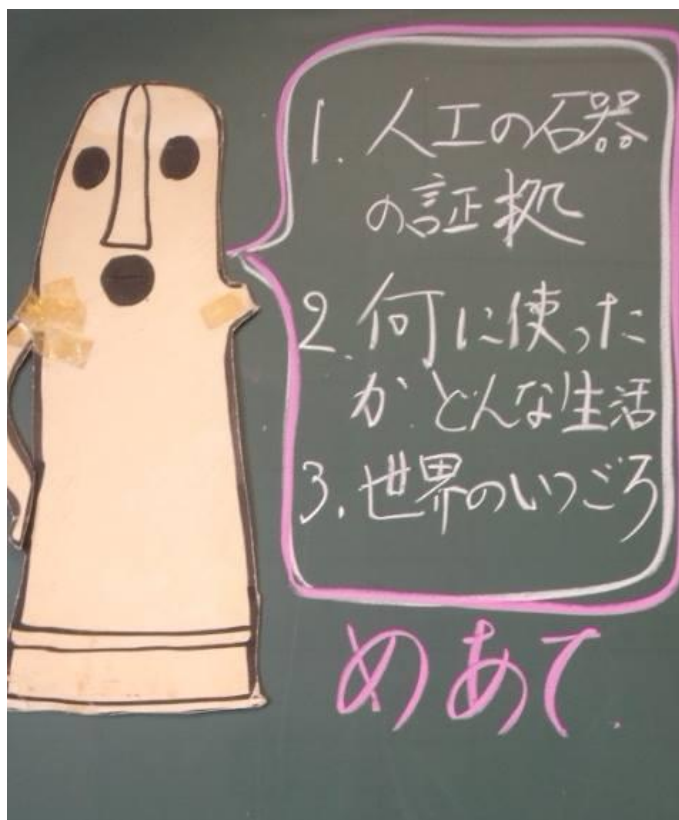


授業ノート 日本の原始時代1 旧石器・縄文

KYOICHI NOJIMA・TUESDAY, 5 JULY 2016



1. 人工の石器の証拠
2. 何に使ったか とな生活
3. 世界のいごろ

はにお様

いつ頃からか、この授業をやるときは、「はにお様」というキャラクターを登場させている。「今から話すことは、先生が語るのではないよ、歴史の神様ははにお様が、先生を通して言葉を掛けて下さる。はにお様という名前だが、ハニーって呼んで。」

右手がもげてしまったが、この単元をやるときは、なぜか、この「はにお様」が欠かせない。仮屋坂・長者平で拾ってきたヤジリを生徒に配る。各班に、30個ずつ1ケースの石鏃。ケースをひらいて触らせる。世界の原始時代で学んだ流れ(猿人・直立歩行→原人・火と言葉→新人→1万年前氷河期が終わり旧石器から新石器へ→

農業の発明→四大文明→紀元前後・ローマと漢の古代帝国)を復習した上で、はにお様のお題を伝える ①この石が、自然の石ではなく、人工の石器であることを証明しなさい②この石は何に使われたのか、どんな生活をしていたのか。③この石が使われた時代は世界のどの時代なのか。



まず最初にヤジリを触らせるのは、歴史の授業の興奮・感動を伝えたいから。僕自身が12歳の時、湖東中で箕浦先生から長者平のヤジリを見せてもらったことから出発した。46年前だった。次の日曜日、自転車で行ってみた。あの夏の興奮は、今も自分の中に生きている。この授業をやると、必ず、僕も拾いたい、どこか教えてと言ってくる生徒がいる。ああ、僕自身だ、と思う。僕はあの時、歴史の神様に拾

われたのだと思う。だから、僕も次の子供に歴史の神様の言葉を伝える。

石を触らせながら、①は、加工のあと、特に彫刻刀の丸刀で削ったようなあとがあること、②は、小型石器だから、大型動物ではないこと、ハートのような形から、弓矢の先端＝やじりであることを当てる③小型動物、弓矢ということから新石器時代。同時に新石器時代の特色、磨製石器・土器・村定住の特色も知らせ、日本の各地に何カ所も見つかっていることを確認する。

何時代というのかな、土器の模様でわかるね

「縄文時代」

そうだね。日本地図と、浜名湖周辺地図に縄文遺跡の分布を書き込む。日本列島全体の無数の地域にある。海岸部には貝塚、森の中にはもっとたくさんの集落。黒曜石やサヌカイトの産出地と広がりなど。でも大切なのは、この石がでた浜名湖周辺の分布。石錐や石匙を触らせながら、湖岸の台地沿いに2～3キロおきに分布する石器がでるだけのところと、集落・貝塚・人骨が見つかる蜷塚の関係を考えさせる。

狩りの基地だったんだろうね。拠点集落と、狩猟サイト。この関係を想像することで、縄文人の生活を生徒の頭の中に広げることができる。太鼓や笛の音や煙を使って集団で狩りをしたことだろう。石器のでる場所には、石の大きさやつくる石器の種類によって区画がある。分業をしていたんだろう。

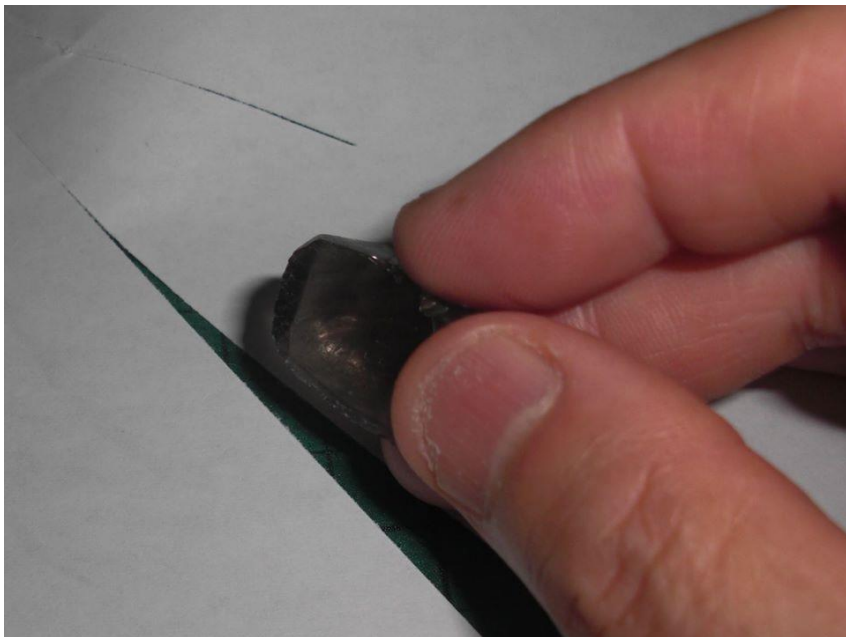
いろいろな、石鏃以外の石器を見せる。石刃、石錐、石匙、石斧・・・。

特に、黒曜石のナイフは、小さいが手に良くなじむ。実際に触ってみないとどう使ったかわからない。逆に、触ると、手になじむ位置があって、どう使われたかよくわかる。

黒曜石の石刃で、紙を切ってみせる。わあ、と声上がる。「こうやって、イノシシや鹿の首筋を切って血を抜き、おしりのところからこのナイフを入れてくるって滑らし、皮をはぐ」



「皮はなめして、この石錐で穴を開け、ツルで結んでいくんだらうね」
教室の中に、想像で縄文人の生活をつくる。



ここまでが前半。「こうやって日本の原始時代の人々は生きていたんだね。これ以前の日本はどうだったんだらう。この以前には歴史はあったのかな」

教科書的な知識のある子は、あったと答えるが、石器を手に想像で実感していると、それ以前はどうなんだらうと遠くを見る目になる。あったんだらうか。おそらく、縄文人も、自分たちよりもっと前はどうかだったんだらうと遠くを見る目になったに違いない。大切なことは、教科書の言語知識ではなく、実物に触れて、その感覚から考えること。



「1949(昭和 24 年)まで、全ての教科書も専門家の本も、これ以前の旧石器は日本には存在しないとしていました。あるはずがないと思っていたんだね。ナウマン象の骨は、見つかったのに。」(浜松の佐浜が本格的発見の最初。標準標本になっている。)

相沢忠洋さんの話をする。中学時代に石器に興味を持った相沢さんは、石器を拾い、記録をとり、考古学雑誌に投稿するほどだった。中学校卒業後、高校に進学しないで家業の豆腐を自転車で行商していた彼は、ある日岩宿村の切り通しを通りながら関東ロームの下から見事な黒曜石の大形石槍を見つける。

彼は記録をとり、間違いのないことを確信し明治大学の芹沢長介博士に手紙を書く。その夏、芹沢とその考古学教室の学生たちが本格的な発掘を行い、日本にも旧石器時代があったことが大ニュースとして発表される。専門歴史書から小中の教科書までが一斉に書き換えられた。

この後、全国で旧石器時代遺跡が発見される。ナウマン象は本州に、マンモスは北海道で見つかったから、人間がいても不思議ではなかったんだ。ただ、今の人が縄文遺跡にばかり気をとられて、気がつかないんだね。

「でも、何でマンモスやナウマン象がこんな狭い日本にいられたの？」

ここで、海岸線が今より100m低く、対馬海峡と宗谷海峡はそれぞれ陸続きだったこと説明し、地図に記入する。

次は何が見つかればいい？

「人骨！」そうだね。浜名湖北岸で3つ見つかりました。牛川、三ヶ日、浜北人。原人ではなくて新人だから〇〇人だよ。

「すごい！」石灰岩地層だからね、洞窟がある。「竜ヶ石洞！」そう。そういうところが他にもいっぱいあってね。浜北人は岩水寺の横の石灰岩採掘場から。でも、牛川と三ヶ日は、あとの科学調査で縄文時代とわかって、消えました。「なんだ」

でも！逆にその調査で浜北人は、確実に2万年前、旧石器人であることが確定しました。

「す、すごい」



「相沢さんは、何で発見できたんだろうね」

豆腐を売りながらでも、勉強を続けていたからだね。本を読み、記録をとり、専門雑誌に投書して、大学教授とも文通していたから。芹

沢博士も、田舎の少年の手紙をきちんと向き合って、認めていたからだよね。そういう世界が、みんなにもこれから広がるといいね。

教科書に書いてあることは、少年の発見で書き換えられる。書いてあることは、誰かが書いたこと。真実はそれとは別にある。だから、自分の手で触って、自分の目で見て、自分の頭で考えなさい。はにお様はこうおっしゃっているよ。みなさんにお伝えしたよ。こう結んで授業を終わる。